

神経生理検査を始めます！

手足のしびれ、感覚が鈍い、力が入らない（筋力低下）、歩くとふらつく（歩行障害）などの症状を自覚される患者さんは大変多いと思います。これらの症状は、特に手足の神経や筋肉に原因があることが多いのです。これらの原因を調べる目的に、くまもと温石病院では、平成26年5月（毎週土曜日午前中）から、下記の神経生理検査を始めることになりました。

検査項目

（1）神経伝導検査（NCS）：電気刺激を行なうことにより、末梢神経に病気があるかどうかを調べることができます。

（2）体性感覚誘発電位（SEP）：末梢神経から脊髄を経て、脳に至る感覚神経系に病気があるかどうかを調べることができます。この検査では、比較的長くびりびりとした弱い刺激を感じますが、慣れてくると眠くなってきます。

（3）針筋電図：筋肉に細い針を刺入して、筋肉や運動神経に病気があるかどうかを調べることができます。

評価できる疾患

（1）絞扼性神経障害：手根管症候群、肘部管症候群、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺など。（2）糖尿病によるしびれ（3）ギラン・バレー症候群（4）変形性頸椎症・腰椎症、頸部・腰部椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症による神経根障害（5）脊髄損傷（6）そのほかのいろいろな脊髄の病気（7）筋炎、筋ジストロフィー症などの筋肉疾患（8）運動ニューロン疾患などが挙げられます。

当院では日本臨床神経生理学会の認定技師または認定医の資格を有する専門の検査技師および医師が検査を担当します。院外の病院やクリニックからも予約を承ります。是非、下記の松永まで神経生理検査をご依頼下さい（電話予約、くまもと温石病院 代表 0964-46-3000、神経内科医師 松永 薫まで）。